

第 3 章

父親のかかわりと 子育て支援

高岡 純子 (1 節)

真田美恵子 (2 節)

朝永 昌孝 (3・4 節)



第1節

支援する人・機関・サービス

母親が家を空けるとき、「子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）」が「いる（ある）」と回答した母親の比率は5年前とほぼ変わらない。また実際の子どもの預け先については、「父親」の比率が増加している。

子どもの預け先があるかどうかは、この5年間でほとんど変わらない

通常、子どもを園に通わせている時間以外で家を空けるとき、「子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）」がいる（ある）かについて、母親による回答を分析した。この項目が加わったのは05年調査からであるため、ここではこの5年間における比較結果をまとめる。まず全体については、図3-1-1に示したとおりであり、子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）が「いる（ある）」と回答した母親の比率をみると、05年78.1%、10年75.9%で、5年間でほぼ変わらなかった。

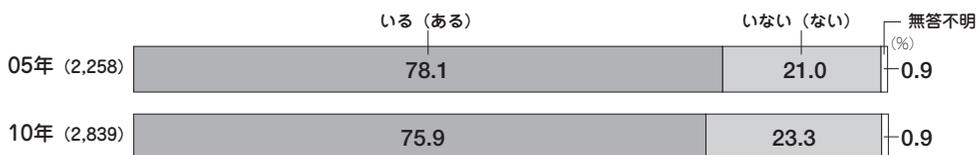
「子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）」として、「父親」が増加

実際にどのような人（機関・サービス）に子どもを預けているのかについてたずねたところ（図3-1-2）、10年でもっとも高いのは「祖父母や親戚」で、79.1%である。次い

で「父親」（61.5%）、「保育園の一時預かりや幼稚園の預かり保育」（17.6%）の順であった。5年前よりも比率が増加したのは「父親」で、05年50.9%から10年61.5%と10.6ポイント増加した。一方減少したのは、「保育園の一時預かりや幼稚園の預かり保育」（5.7ポイント減少）、「近所の人」（5.8ポイント減少）であった。

子どもの年齢区分別・就園状況別に「子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）」をみてみよう（図3-1-3）。もっとも比率の高かった「祖父母や親戚」は、低年齢で数値が高く、8割強となっている。子どもの年齢が低い場合、病気になることが多いので、「祖父母や親戚」を頼りにする機会が多いのではないだろうか。「父親」は、未就園児・幼稚園児よりも、保育園児の比率が高い（低年齢保育園児68.8%、高年齢保育園児70.1%、低年齢未就園児64.0%、高年齢幼稚園児55.7%）。保育園児の「父親」は、一部の家事や子育てでも、未就園児・幼稚園児の「父親」に比べてかかる比率が高くなっている。「子どもを預かる」ことも同様の傾向であると思われる。

図3-1-1 子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）の有無（経年比較）

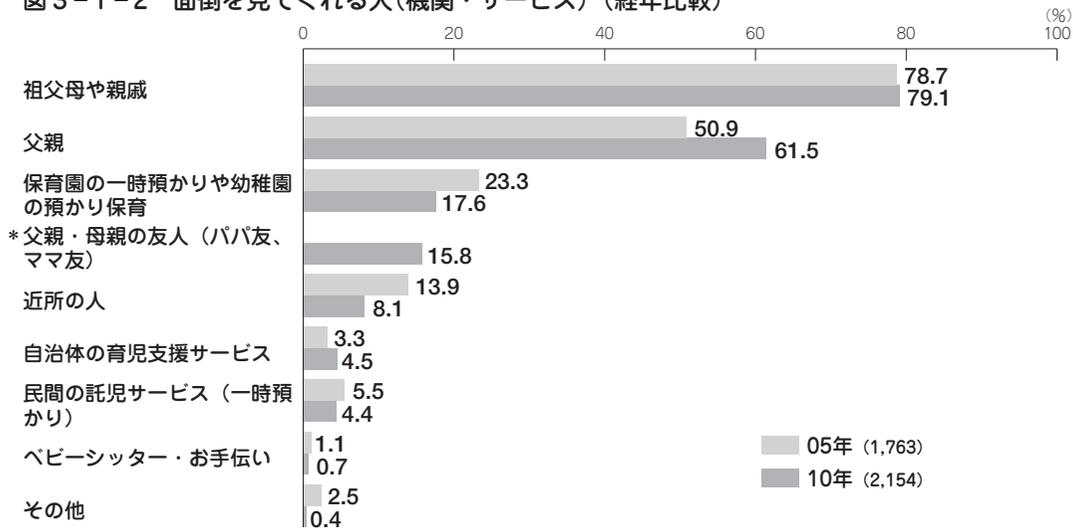


注1) 母親のみ回答。

注2) 05年調査では、「あなたが仕事以外で家を空けるとき、子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）がいます（あります）か」とたずねている。

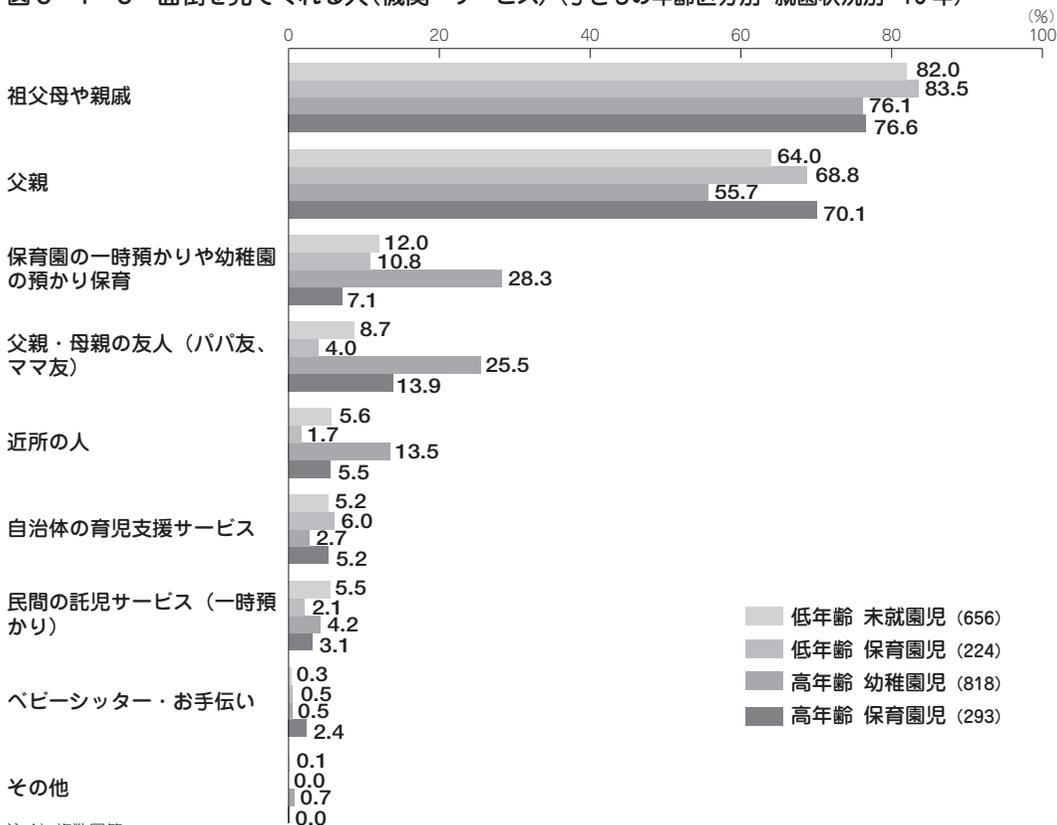
注3) () 内はサンプル数。

図3-1-2 面倒を見てくれる人(機関・サービス)(経年比較)



注1) 複数回答。
 注2) 子どもの面倒を見てくれる人(機関・サービス)が「いる(ある)」と回答した母親のみ回答。
 注3) *は10年調査のみの項目。
 注4) 「保育園の一時預かりや幼稚園の預かり保育」は、05年調査では「保育園・幼稚園(預かり保育)」。
 注5) ()内はサンプル数。

図3-1-3 面倒を見てくれる人(機関・サービス)(子どもの年齢区分別・就園状況別 10年)



注1) 複数回答。
 注2) 子どもの面倒を見てくれる人(機関・サービス)が「いる(ある)」と回答した母親のみ回答。
 注3) 調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
 低年齢：1歳6か月～3歳11か月の幼児。
 高年齢：4歳0か月～6歳11か月の幼児。
 注4) ()内はサンプル数。

子どもが低年齢の場合、未就園児と保育園児で「子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）」は差がほとんどみられないが、高年齢になると、幼稚園児のほうが保育園児よりも預かり先が広範囲である。高年齢幼稚園児が他の子どもよりも多い預かり先は「保育園の一時預かりや幼稚園の預かり保育」(28.3%)、「父親・母親の友人（パパ友、ママ友）」(25.5%)、「近所の人」(13.5%)である。パパ友・ママ友や近所の人など、地域での子どもを介したネットワークを広くもっているのが高年齢幼稚園児の親の特徴であることがうかがえる。

子どもの面倒を見てくれる人がいなくて困ることが多いのは、保育園児の母親

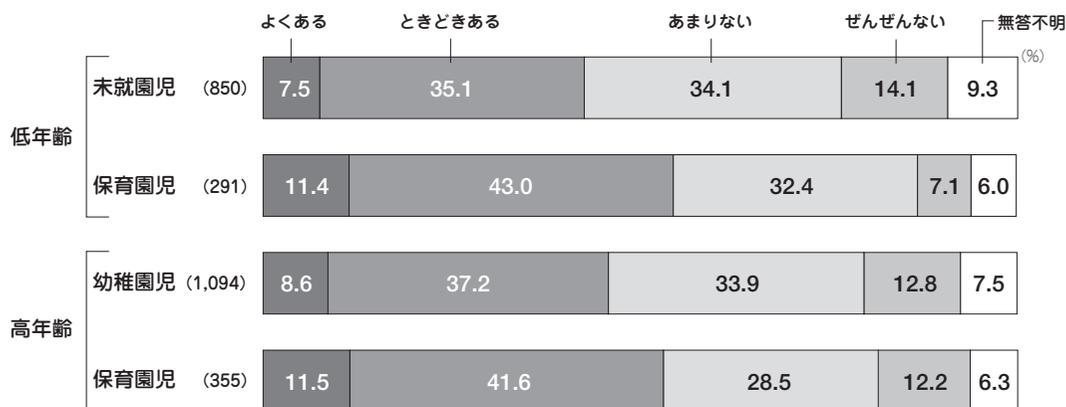
家を空けるときに、子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）がいなくて（なくて）困ることがあるかどうかをきいた（図3-1-4）。「困ること」が「ある（よく＋ときどき）」と回答した母親は、46.9%と約半数であった。子どもの年齢区分別・就園状況別にみると（図3-1-5）、「ある」と回答した比率が高いのは保育園児の母親で、低年齢54.4%、高年齢53.1%で、5割を超えている。低年齢未就園児は42.6%、高年齢幼稚園児は45.8%であった。仕事をもつ母親の場合、仕事を離れた場で子どもを預けられるような地域でのネットワークが比較的少ないのかもしれない。

図3-1-4 子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）がいなくて（なくて）困ることがあるか（10年）



注1) 母親のみ回答。
注2) サンプル数は2,839人。

図3-1-5 子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）がいなくて（なくて）困ることがあるか（子どもの年齢区分別・就園状況別 10年）



注1) 母親のみ回答。
注2) 調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
低年齢：1歳6か月～3歳11か月の幼児。
高年齢：4歳0か月～6歳11か月の幼児。
注3) () 内はサンプル数。

第2節

幼稚園・保育園への要望

園に対する要望をみると、10年前に比べて増加傾向にあるのは、「知的教育を増やしてほしい」「保育終了後におけいこ事をやってほしい」「集団生活のルールを教えてほしい」である。

10年前より、園の教育に対する要望が大きくなっている

幼稚園・保育園への要望について、母親による回答結果のみを抽出した(図3-2-1)。幼稚園・保育園への要望(「とてもそう思う+まあそう思う」の%)が10年前の00年調査から一貫して増加傾向にあるのは、「知的教育を増やしてほしい」(10年前より15.0ポイント増)、「保育終了後におけいこ事をやってほしい」(同10.3ポイント増)、「集団生活のルールを教えてほしい」(同6.7ポイント増)である。また、00年調査から05年調査にかけて増加し、10年調査で比率がほぼ変わらなかったのが、「子どもに友だち付き合いが上手になるような働きかけをしてほしい」(同11.2ポイント増)である。知的教育、おけいこ事、社会性の育ちにかかわる質問項目の比率が増加しており、園の教育に対する要望が10年前より大きくなっていることがうかがえる。

保育園児の母親は「家族や子どもが病気の時の預かり」「子育て支援」を、幼稚園児の母親は「保育時間の延長」を園に求めている

つづいて就園状況別に、さらに保育園児の母親については子どもの年齢区分別に園への要望の比較を行った(図3-2-2)。

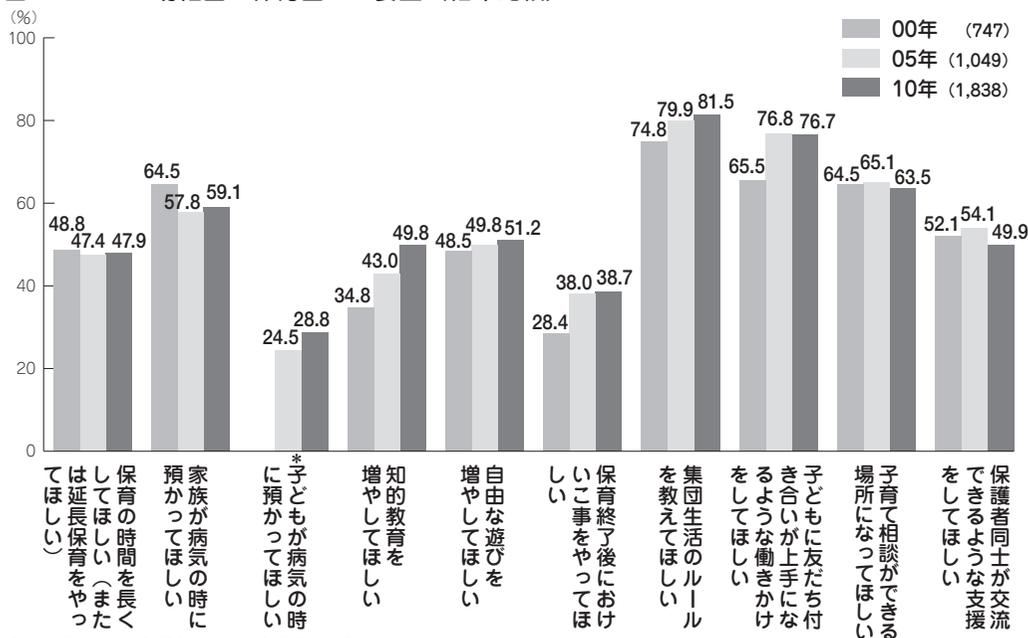
就園状況別に差があまりみられなかったのは、「集団生活のルールを教えてほしい」「子どもに友だち付き合いが上手になるような働

きかけをしてほしい」などの項目で、就園状況にかかわらず、7~8割台であった。子どもの社会性の育ちにかかわる要望は、就園状況による差が大きいと考えられる。

一方、保育園児の母親のほうが幼稚園児の母親よりも大きかった要望は、「家族が病気の時に預かってほしい」「子どもが病気の時に預かってほしい」「知的教育を増やしてほしい」「子育て相談ができる場所になってほしい」「保護者同士が交流できるような支援をしてほしい」である。幼稚園児の母親のほうが大きい要望は、「保育の時間を長くしてほしい(または延長保育をやってほしい)」である。保育園児の母親は「家族や子どもが病気の時の預かり」「知的教育」「子育て支援」といった、家族を含めたより多くの側面での要望が、幼稚園児の母親は主に「日常的な保育時間の延長」という点での要望が大きいようである。

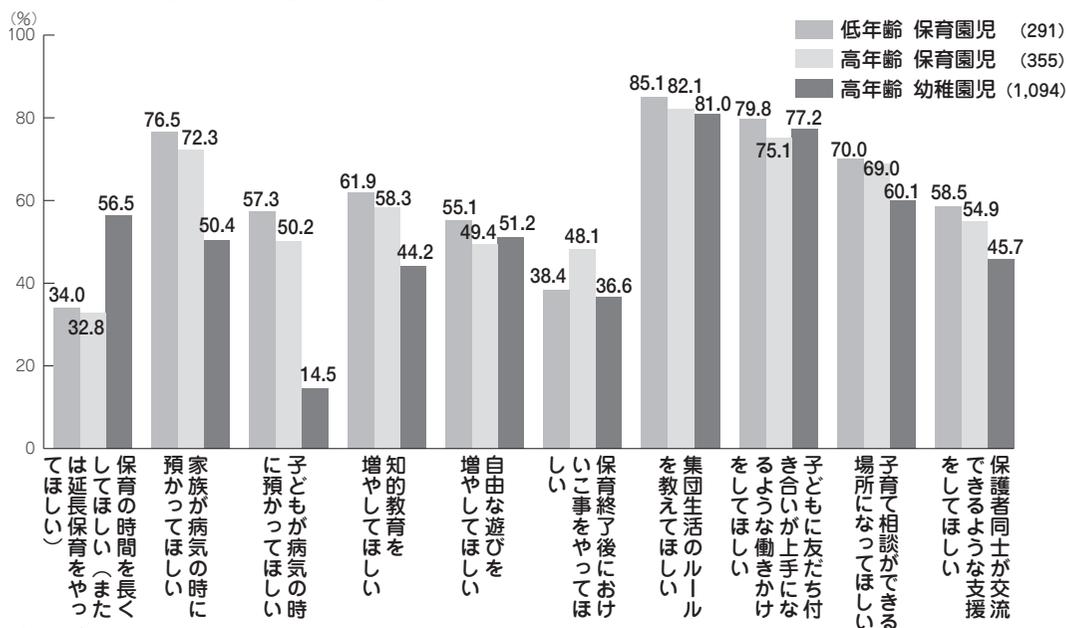
保育園児の母親について、子どもの年齢区分別に比較してみた。低年齢児の母親のほうが大きい要望は「子どもが病気の時に預かってほしい」(7.1ポイント差)、「自由な遊びを増やしてほしい」(5.7ポイント差)である。高年齢児の母親のほうが大きい要望は、「保育終了後におけいこ事をやってほしい」(9.7ポイント差)である。病気にかかりやすい低年齢児と、より教育的なかわりが必要とされる高年齢児という子どもの年齢による発達などの違いが、園への要望にも表れているのであろう。

図3-2-1 幼稚園・保育園への要望（経年比較）



注1) 「とてもそう思う+まあそう思う」の%。
 注2) 母親の回答のみ分析。
 注3) 子どもを園に通わせている人のみ回答。
 注4) *は00年調査ではたずねていない項目。
 注5) () 内はサンプル数。

図3-2-2 幼稚園・保育園への要望（子どもの年齢区分別・就園状況別 10年）



注1) 「とてもそう思う+まあそう思う」の%。
 注2) 母親の回答のみ分析。
 注3) 子どもを園に通わせている人のみ回答。
 注4) 調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
 低年齢：1歳6か月～3歳11か月の幼児。
 高年齢：4歳0か月～6歳11か月の幼児。
 注5) () 内はサンプル数。

1) 育児への精神的サポート

育児への父親の精神的なサポートを感じる母親の比率は、この5年間でやや増加傾向。また、子どもの年齢があがるにつれ、父親のかかわりを感じる母親の比率は減少している。

子育てにおいて、父親が果たす役割は母親同様に大きい。近年、社会的にも父親の子育て参加を支援する風潮は高まってきている。また、当事者である父親自身も、子育て参加への意識は高まってきている。たとえば「第2回乳幼児の父親についての調査」（ベネッセ次世代育成研究所、2009年実施）によれば、「家事や育児に今以上にかかわりたい」と思う父親の比率は、2005年の47.9%から、2009年には54.2%へと増加している（図表省略）。こうした背景をうけ、本節では、配偶者のいる母親に対して、子どもの父親の家事・育児へのかかわりについてたずねた結果をみていきたい。

子どもの母親からみた、育児への父親の精神的サポートはこの5年でやや増加傾向

はじめに、「父親に関して、あなたは次のことをどう思いますか」として、子どもの父親から育児に対してどれくらい精神的なサポートがあると感じるかをたずねた結果をみてみよう（図3-3-1）。これによると、10年調査で「そう思う（とても+まあ）」と回答した比率がもっとも高かったのは、「子育てに関する考え方に共感してくれる」の82.4%で、次いで「育児の悩みの相談にのってくれる」が77.6%、「子どもの一日の様子を聞いてくれる」が74.5%となっている。

05年から10年にかけての変化をみると、「育児の悩みの相談にのってくれる」が71.9%から77.6%で5.7ポイント増加、「子育てに関する考え方に共感してくれる」が77.7%から82.4%で4.7ポイント増加など、育児への父親の精神的サポートを感じる母親は、全体的にやや増加傾向にあるようだ。

子どもの年齢があがるにつれて、育児への父親の精神的なかわりは減少

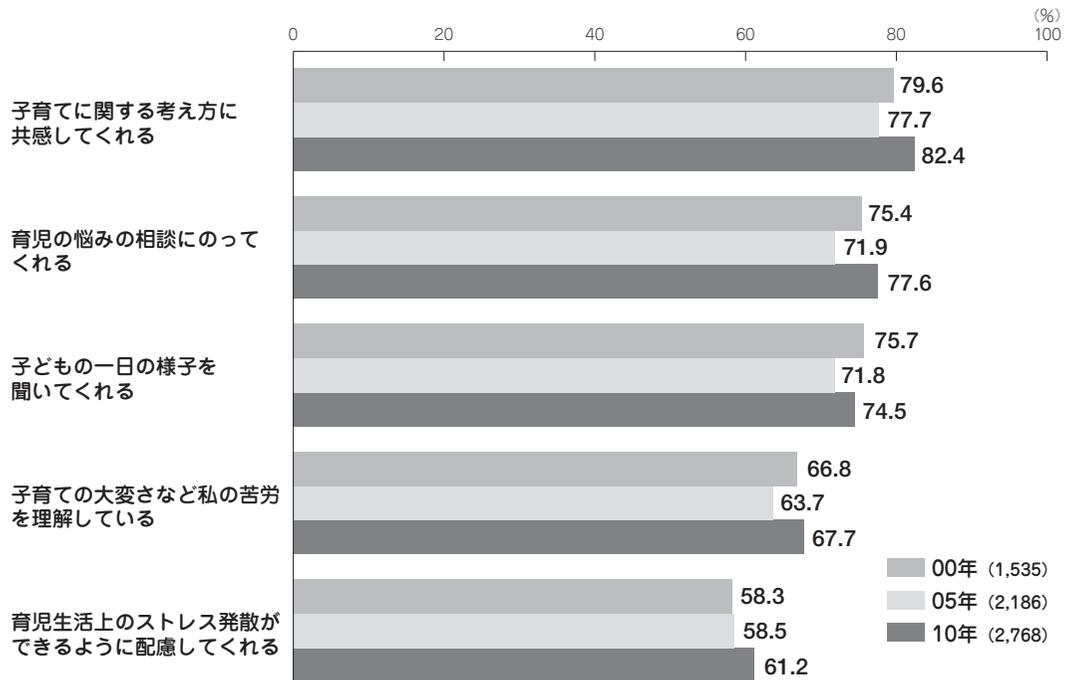
次に、子どもの年齢別、母親の就業状況別に違いをみてみよう（表3-3-1）。まず、子どもの年齢別にみてみると、大半の項目において、子どもの年齢があがるにつれて、「そう思う」（「とてもそう思う」+「そう思う」）という比率は減少する傾向であることがわかる。たとえば、「子育てに関する考え方に共感してくれる」は1歳後半児88.8%→4歳児80.7%→6歳児78.8%、「育児の悩みの相談にのってくれる」は1歳後半児86.5%→4歳児78.4%→6歳児72.1%、などとなっている。

ここでの数値は、子どもの母親の回答に基づくものであり、実際に父親の精神的なかわりが減少するのか、母親の評価の基準が変化するのか、あるいは子どもの発達に応じてかわりの必要性が変化するのか、複数の可能性が考えられる。ただいずれにせよ、子どもの年齢に応じた違いがあることは確かだろう。

母親の就業状況別に違いをみると、常勤者と専業主婦が精神的なサポートを感じている

比率が高めの傾向にあり、これに比べるとパートタイムの母親はやや低い。

図3-3-1 育児への父親の精神的サポート（経年比較）



注1) 「とてもそう思う+まあそう思う」の%。
 注2) 配偶者がいる母親のみ回答。
 注3) ()内はサンプル数。

表3-3-1 育児への父親の精神的サポート（子どもの年齢別 10年）（母親の就業状況別 10年）

	子どもの年齢別						母親の就業状況別		
	1歳後半児 (258)	2歳児 (470)	3歳児 (523)	4歳児 (542)	5歳児 (481)	6歳児 (494)	常勤者 (373)	パートタイム (442)	専業主婦 (1,599)
子育てに関する考え方に共感してくれる	88.8	86.2	83.9	80.7	78.7	78.8	81.9	75.6	84.3
育児の悩みの相談にのってくれる	86.5	79.0	77.7	78.4	76.0	72.1	79.2	71.6	78.3
子どもの一日の様子を聞いてくれる	82.2	77.3	75.5	74.0	73.6	68.4	76.5	67.0	75.4
子育ての大変さなど私の苦勞を理解している	73.6	71.3	67.9	67.4	65.4	63.4	72.4	61.0	68.4
育児生活上のストレス発散ができるように配慮してくれる	65.9	60.9	62.2	61.2	62.1	57.5	64.0	58.3	60.6

注1) 「とてもそう思う+まあそう思う」の%。
 注2) 配偶者がいる母親のみ回答。
 注3) 1歳後半児は、1歳6か月～1歳11か月の幼児。
 注4) ()内はサンプル数。

2) 家事・育児へのかかわりの現状

多くの母親からみて、父親の日常的な家事や育児へのかかわりは、5年前と比べて、あまり変化していない。母親が常勤者の場合のほうが、パートタイムや専業主婦の場合より、父親がかかわっている比率は高い。

前項では、育児への父親の精神的なサポートについてみてきた。次に、父親が家事・育児を日常的にどれくらい担っているのか、という点についてみていこう。

父親が日常的に行っている比率がもっとも高いのは、「子どもを叱ったりほめたりする」こと

「父親は次のことについて、どれくらいしていますか」として、配偶者のいる母親に対して、家事や育児に関する11項目の状況をたずねた。具体的な頻度で把握できる9項目については、「ほとんど毎日する」「週に3～5回する」「週に1～2回する」「ほとんどしない」の4段階でたずねた。このたずね方が馴染みにくい「ごみを出す」「子どもが病気の時、面倒を見る」については、「いつもする」「ときどきする」「あまりしない」「ぜんぜんしない」の4段階でたずねることとした。

図3-3-2は、10年調査での父親の家事・育児への参加状況を示したものである。これによると、「ほとんど毎日する+週に3～5回する」の比率がもっとも高かったのは、「子どもを叱ったりほめたりする」の58.4%だった。さらに「週に1～2回する」まで合わせると9割を超える。次いで、「子どもと一緒に室内で遊ぶ」や「子どもをお風呂に入れる」ことを「ほとんど毎日する+週に3～5

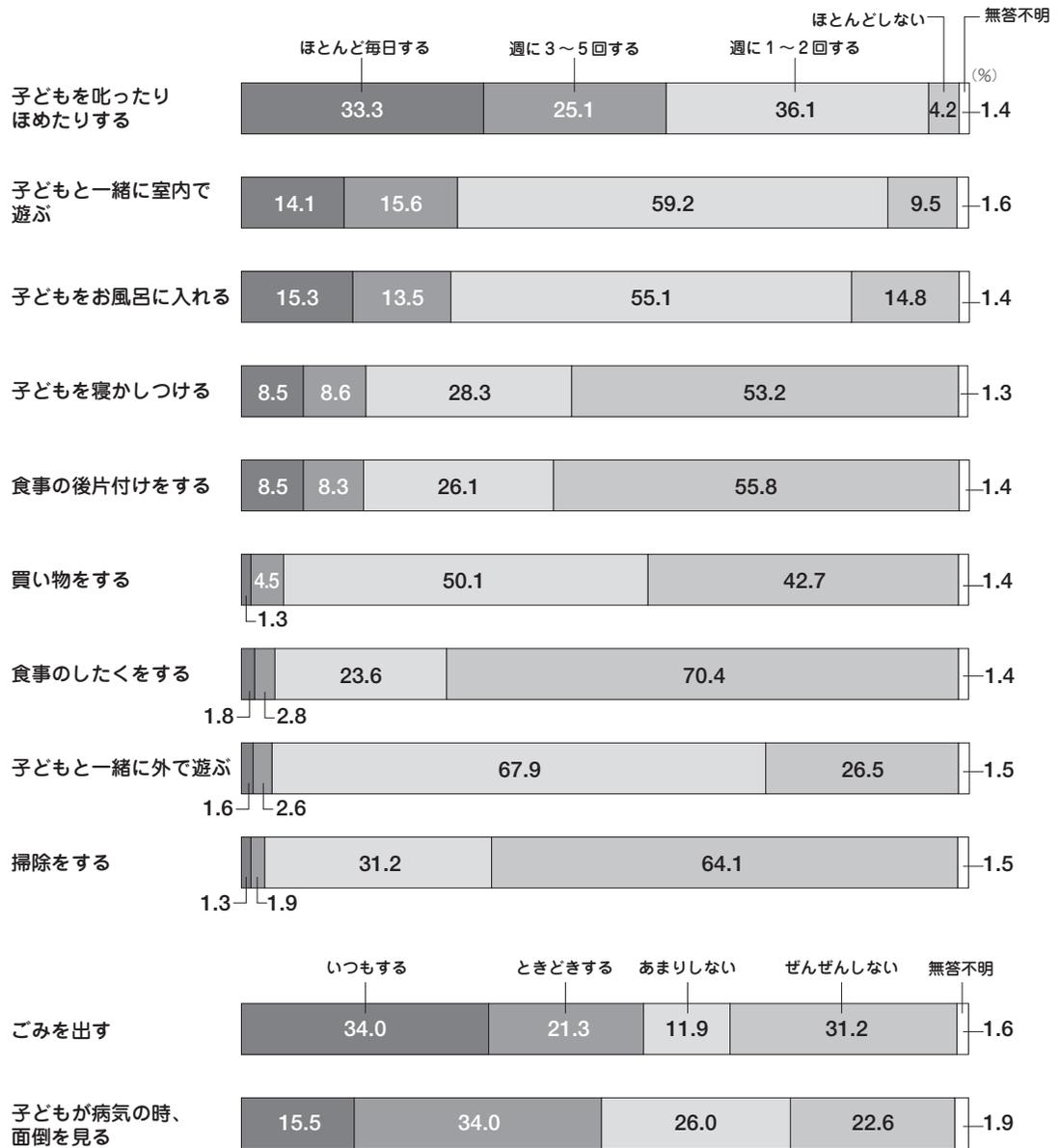
回する」という比率が3割程度で続く。また、これらの項目は「週に1～2回する」という回答が6割近くあることは目をひくだろう。

このように、育児の項目が上位にきたことに対して、家事に日常にかかわっている比率は低い。「食事の後片付けをする」については、「ほとんど毎日する+週に3～5回する」と回答した比率が16.8%だったが、たとえば「買い物をする」「食事のしたくをする」は5%前後だった。ただし、そのような中で、「ごみを出す」は、「する(いつも+ときどき)」の比率が過半数となっており(55.3%)、父親が日常的に行っている主要な家事ということができそうだ。

父親の日常的な家事や育児へのかかわりは、5年前からあまり変化していない

図3-3-3は、これまで述べてきた父親の家事・育児への参加状況について、10年間の経年比較で示したものである。図中の数値は、「ほとんど毎日する+週に3～5回する」の比率である(「ごみを出す」「子どもが病気の時、面倒を見る」は「いつもする+ときどきする」の比率)。こうしてみると、5年前と比べて、あまり変化はみられないことがわかる。多くの母親からみて、父親が日常的に家事や育児にかかわるとい状況にはなっていないようだ。

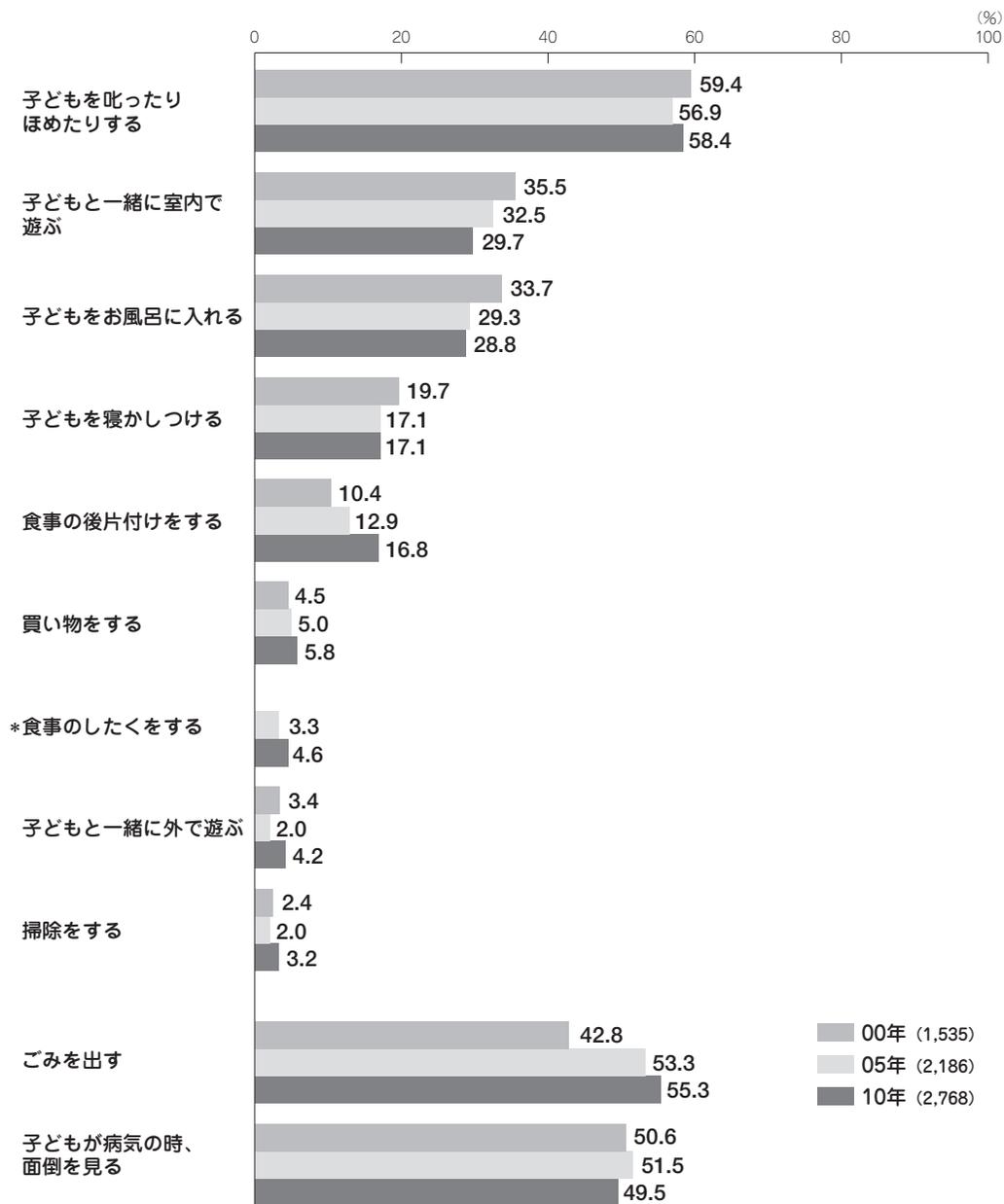
図3-3-2 父親の家事・育児への参加状況（10年）



注1) 配偶者がいる母親のみ回答。

注2) サンプル数は2,768人。

図3-3-3 父親の家事・育児への参加状況（経年比較）



注1) 「ほとんど毎日する+週に3~5回する」の%。
 「ごみを出す」「子どもが病気の時、面倒を見る」は、「いつもする+ときどきする」の%。
 注2) 配偶者がいる母親のみ回答。
 注3) *は00年調査でたずねていない項目。
 注4) () 内はサンプル数。

子どもの年齢があがるにつれ、育児への父親の頻繁なかかわりは減少する傾向

子どもの父親が家事や育児にどれくらいかかわるかについては、父親自身の意識が1つの重要な要因であることはいうまでもないだろうが、それとともに、子どもの年齢や、子どもの母親（＝妻）の状況といった、さまざまな条件に大きく規定されることは確かであろう。

そこでまず、子どもの年齢別に、父親の家事・育児への参加状況をみた結果を示す（表3-3-2）。家事・育児の内容によって、日常的に行っている父親の比率自体が異なるため、あまり違いがみられない項目もあるが、概して子どもの年齢があがるにつれて、比率は減少する傾向にある。

たとえば、「子どもを叱ったりほめたりする」ことを「ほとんど毎日する十週に3～5回する」の比率は、1歳後半児では68.9%だったのが、4歳児では58.3%、6歳児では50.6%、などとなっている。また、「子どもと一緒に室内で遊ぶ」は、2歳児（40.2%）と3歳児（30.1%）、4歳児（29.1%）と5歳児（20.0%）の間で、それぞれ10ポイント程度の差がみられた。育児に関しては、子どもの年齢によって、そもそもどの程度の頻度で、それらの行動を行う状況が生じるかといった点で違いがあるかもしれない。

母親が常勤者の場合、パートタイムや専業主婦の場合より、父親が日常的に家事や育児にかかわっている

次に、母親の就業状況別に、父親の家事・育児への参加状況をみたものが、図3-3-4である。これをみるとわかるように、多くの項目において、母親が常勤者の場合のほうが、パートタイムや専業主婦の場合よりも、父親が家事・育児を行っている比率は高い。まず、育児に関する項目についてみると、「子どもを叱ったりほめたりする」ことを「ほとんど毎日する十週に3～5回する」という回答は、母親がパートタイムでは55.9%、専業主婦では55.8%なのに対し、常勤者では68.8%である。また、「子どもをお風呂に入れる」は、パートタイム25.8%、専業主婦26.8%に対し、常勤者では38.2%と、いずれも常勤者のほうが10ポイント以上も高い。

さらに、家事に関する項目についても、「食事の後片付けをする」が、パートタイム14.6%、専業主婦14.5%に対し、常勤者では31.3%と、常勤者のほうが15ポイント以上も高い。また、「ごみを出す」ことを「いつもする十ときどきする」という比率も、パートタイム47.4%、専業主婦54.6%に対し、常勤者では67.5%と、常勤者のほうが高くなっている。

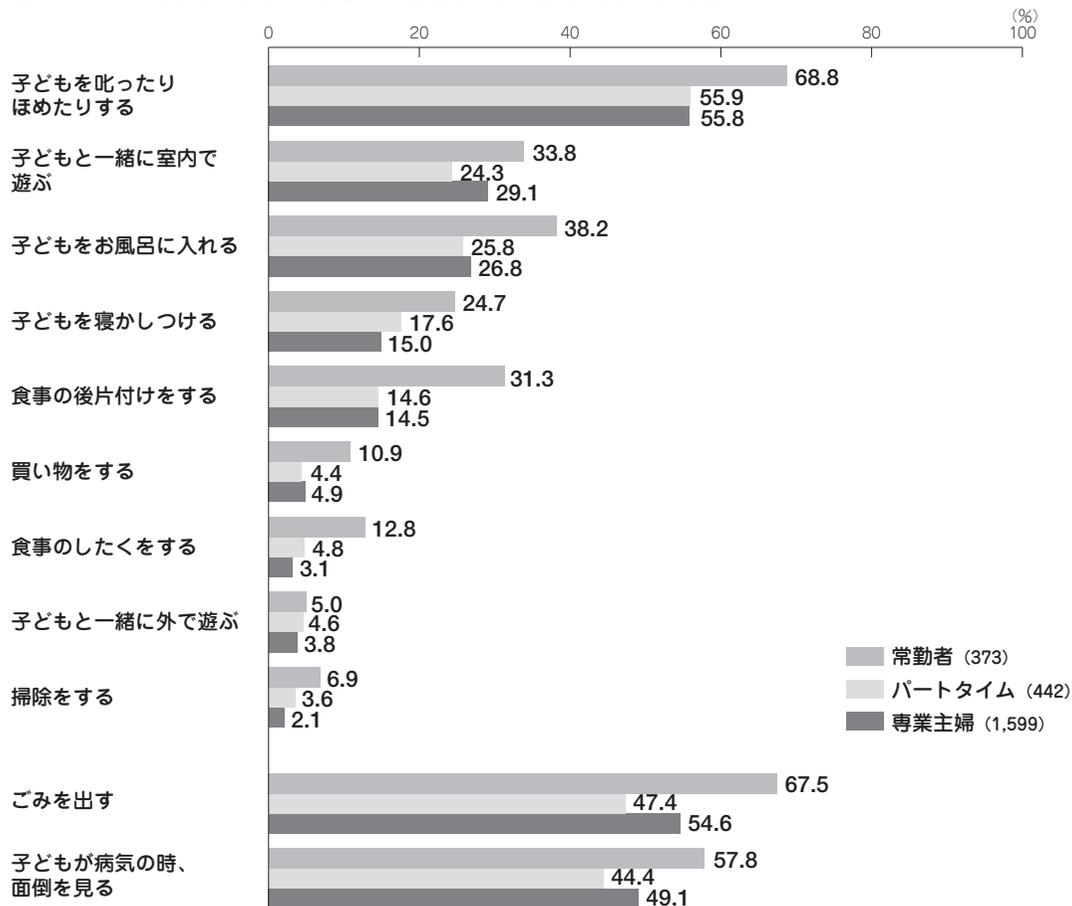
それぞれの家族によって、家事や育児に対する意識・価値観は異なるであろう。また、利用可能な行政のサービスや、職場、地域、親戚の状況など、それぞれの家族がおかれている環境は異なる。父親の家事や育児へのかわりについて考える際には、こうしたさまざまな要因を念頭に、検討していく必要があるだろう。

表3-3-2 父親の家事・育児への参加状況（子どもの年齢別 10年）

	1歳後半児 (258)	2歳児 (470)	3歳児 (523)	4歳児 (542)	5歳児 (481)	6歳児 (494)
子どもを叱ったりほめたりする	68.9	65.2	59.5	58.3	53.1	50.6
子どもと一緒に室内で遊ぶ	46.8	40.2	30.1	29.1	20.0	20.1
子どもをお風呂に入れる	37.2	33.1	31.6	28.6	22.1	23.6
子どもを寝かしつける	19.8	16.7	19.1	18.9	12.8	17.2
食事の後片付けをする	20.2	19.3	17.8	18.7	13.6	12.8
買い物をする	7.3	6.1	6.8	5.3	4.1	5.9
食事のしたくをする	3.9	4.2	5.3	5.3	4.3	4.4
子どもと一緒に外で遊ぶ	6.6	4.5	4.8	3.3	3.9	2.8
掃除をする	5.4	2.6	3.5	4.4	2.7	2.0
ごみを出す	65.5	65.2	53.0	56.4	51.0	45.4
子どもが病気の時、面倒を見る	58.0	48.5	51.0	50.8	44.6	48.4

注1) 「ほとんど毎日する十週に3～5回する」の%。
 「ごみを出す」「子どもが病気の時、面倒を見る」は、「いつもする十ときどきする」の%。
 注2) 配偶者がいる母親のみ回答。
 注3) 1歳後半児は、1歳6か月～1歳11か月の幼児。
 注4) () 内はサンプル数。

図3-3-4 父親の家事・育児への参加状況（母親の就業状況別 10年）



注1) 「ほとんど毎日する十週に3～5回する」の%。
 「ごみを出す」「子どもが病気の時、面倒を見る」は、「いつもする十ときどきする」の%。
 注2) 配偶者がいる母親のみ回答。
 注3) () 内はサンプル数。

第4節

父親のかかわりへの満足度と要望

子どもの父親に、育児にもっと参加してほしいと思う母親は、5年前に比べて減少している。家事参加への要望、家事参加、育児参加への満足度はあまり変化していない。

前節では、子どもの母親からみた、父親の家事・育児へのかかわりの現状についてみてきた。それではこうした状況について、母親はどのような思いをもっているのだろうか。そこで、家事と育児のそれぞれについて、満足度と、もっと参加してほしいという要望をもっているのかどうかをたずねた。

父親に、育児にもっと参加してほしいと思う母親は、5年前に比べて減少。満足度は変化していない

はじめに、父親の育児参加への満足度（図3-4-1）と、育児参加に対する要望（図3-4-2）をみてみよう。

まず、育児参加への満足度を「とても満足している＋まあ満足している」の比率でみると、00年61.0%→05年61.4%→10年64.3%となっており、大きな変化はみられない。父親の育児参加に満足している母親の割合は、おおむね6割程度である。

一方、「父親に、育児にもっと参加してほしいと思いますか」として、育児参加に対する要望をたずねた結果をみると、「とてもそう思う＋まあそう思う」との比率は、00年78.7%→05年77.3%→10年71.9%となってお

り、05年から10年で5.4ポイント減少している。前節でみたように、育児への父親の精神的サポートを感じる母親は、この5年でやや増加傾向にあったが、こうしたことが背景にあるのかもしれない。

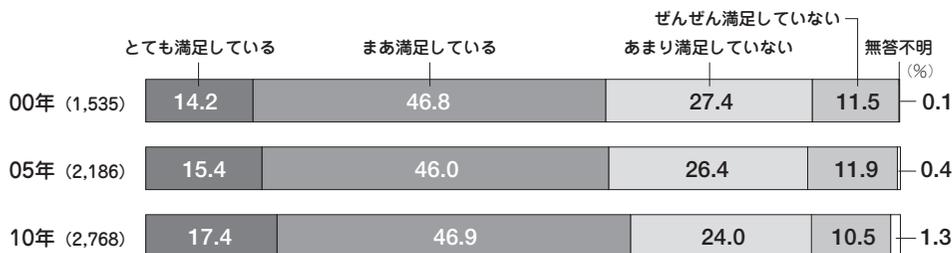
父親の家事参加への満足度や、もっと参加してほしいと思う母親の比率は、あまり変化していない

次に、父親の家事参加への満足度（図3-4-3）と、家事参加に対する要望（図3-4-4）をみてみよう。

家事参加への満足度を「とても満足している＋まあ満足している」の比率でみると、00年49.5%→05年49.0%→10年52.3%となっており、育児参加への満足度と同様に、大きな変化はみられない。父親の家事参加に満足している母親の割合は、おおむね5割程度である。

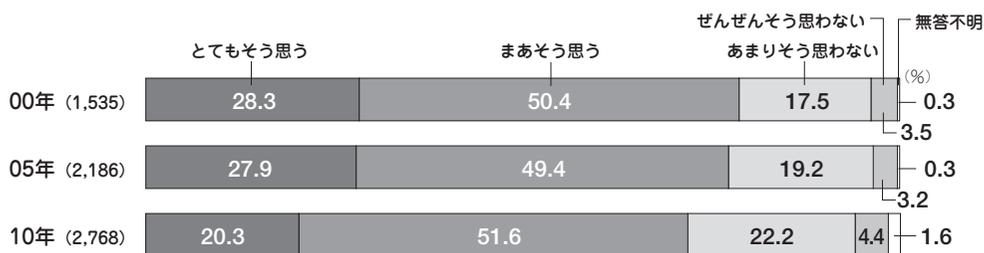
次に、「父親に、家事にもっと参加してほしいと思いますか」として、家事参加に対する要望をたずねた結果をみると、「とてもそう思う＋まあそう思う」の比率は、00年65.8%→05年66.8%→10年63.8%となっており、こちらも大きな変化はみられなかった。

図3-4-1 父親の育児参加への満足度（経年比較）



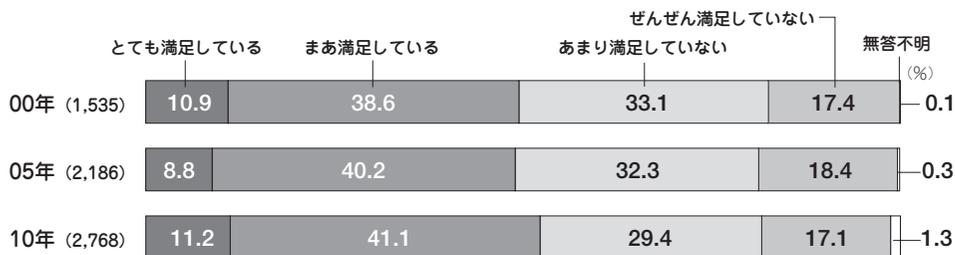
注1) 配偶者がいる母親のみ回答。
注2) () 内はサンプル数。

図3-4-2 父親の育児参加に対する要望（経年比較）



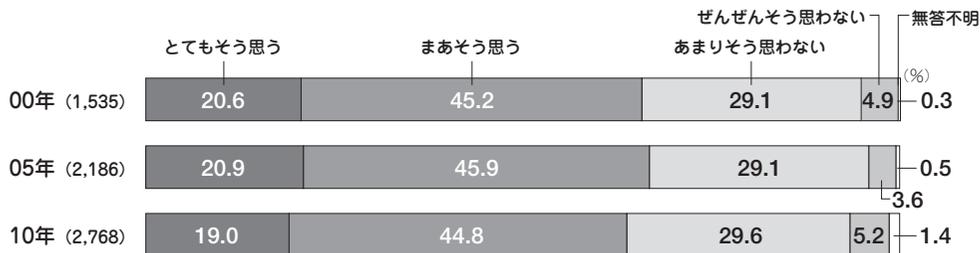
注1) 配偶者がいる母親のみ回答。
注2) () 内はサンプル数。

図3-4-3 父親の家事参加への満足度（経年比較）



注1) 配偶者がいる母親のみ回答。
注2) () 内はサンプル数。

図3-4-4 父親の家事参加に対する要望（経年比較）



注1) 配偶者がいる母親のみ回答。
注2) () 内はサンプル数。

父親の育児参加への満足度がもっとも高いのは、子どもが1歳後半児の母親

次に、子どもの年齢別、および母親の就業状況別に、父親の育児参加への満足度と、育児参加への要望をみてみよう。

まず、父親の育児参加への満足度について、図3-4-5で子どもの年齢別にみると、「とても満足している+まあ満足している」の比率は、1歳後半児で71.2%ともっとも高く、年齢があがるにつれて少しずつ低くなる傾向にあり、もっとも低いのは6歳児の57.9%であった。

一方、育児参加への要望については（図3-4-6）、もっとも高いのは2歳児の74.5%で、低いのは5歳児の68.5%であるが（「とてもそう思う+まあそう思う」の比率）、子どもの年齢に伴った直線的な数値変化を示す訳ではなかった。

次に、母親の就業状況別にみると、育児参加への満足度は、母親が常勤者の場合で68.2%、専業主婦で65.0%、パートタイムで58.3%であった（図3-4-5、「とても満足している+まあ満足している」の比率）。前節でみたように、父親の日常的な育児参加の頻度は常勤者がもっとも高かった。常勤者の満足度についてはこうした点が関係していると考えられるが、専業主婦についてもあまり常勤者と変わらない満足度であることは興味深いと

ころである。一方、育児参加への要望については、母親の就業状況による違いはほとんどみられなかった。

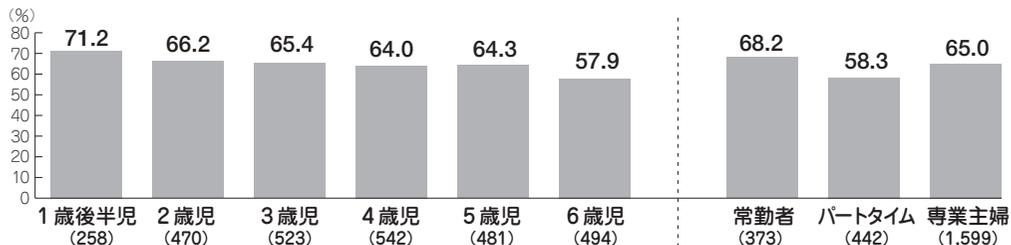
常勤者の母親は、父親にもっと家事を行ってほしい

同様に、父親の家事参加への満足度と、家事参加への要望について、子どもの年齢別、ならびに母親の就業状況別にみたものが、図3-4-7と図3-4-8である。

家事参加への満足度については、育児参加と同様の傾向で、子どもの年齢別では、「とても満足している+まあ満足している」の比率がもっとも高いのは、1歳後半児の57.7%で、もっとも低いのは6歳児の47.3%であった。母親の就業状況別にみた傾向も同様で、常勤者（55.7%）、専業主婦（53.9%）、パートタイム（45.9%）という順になっている。

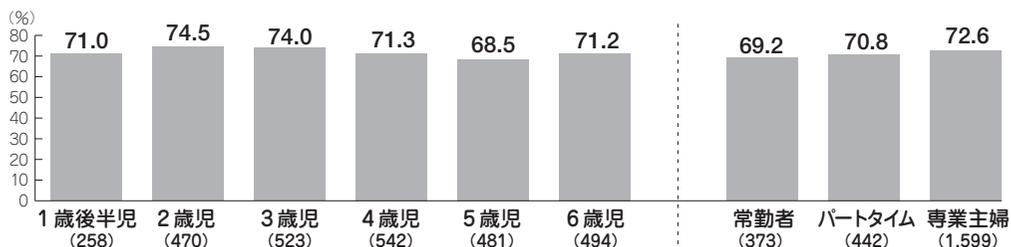
一方、家事参加への要望については、母親の就業状況別で目をひく結果がみられた。もっと参加してほしいと思っている母親の比率は、常勤者70.8%>パートタイム65.4%>専業主婦60.7%である（「とてもそう思う+まあそう思う」の比率）。前節の結果にあったように、相対的にみれば、母親が常勤者の場合のほうが、父親も家事を日常的に行っている頻度は高いものの、もっと家事は行ってほしい、という思いがあるようだ。

図3-4-5 父親の育児参加への満足度（子どもの年齢別 10年）（母親の就業状況別 10年）



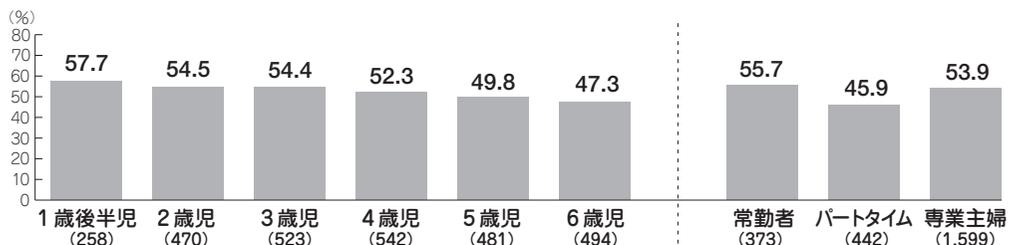
注1) 「とても満足している+まあ満足している」の%。
 注2) 配偶者がいる母親のみ回答。
 注3) 1歳後半児は、1歳6か月～1歳11か月の幼児。
 注4) () 内はサンプル数。

図3-4-6 父親の育児参加に対する要望（子どもの年齢別 10年）（母親の就業状況別 10年）



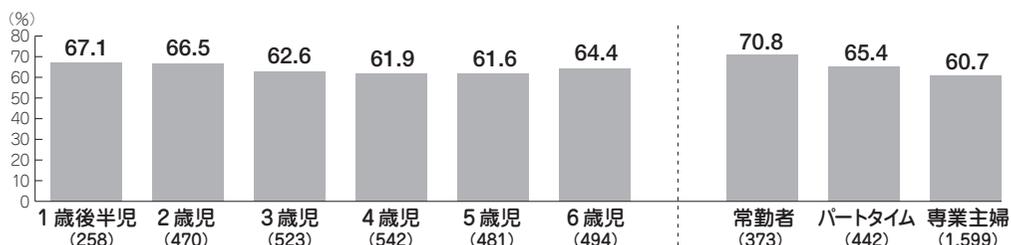
注1) 「とてもそう思う+まあそう思う」の%。
 注2) 配偶者がいる母親のみ回答。
 注3) 1歳後半児は、1歳6か月～1歳11か月の幼児。
 注4) () 内はサンプル数。

図3-4-7 父親の家事参加への満足度（子どもの年齢別 10年）（母親の就業状況別 10年）



注1) 「とても満足している+まあ満足している」の%。
 注2) 配偶者がいる母親のみ回答。
 注3) 1歳後半児は、1歳6か月～1歳11か月の幼児。
 注4) () 内はサンプル数。

図3-4-8 父親の家事参加に対する要望（子どもの年齢別 10年）（母親の就業状況別 10年）



注1) 「とてもそう思う+まあそう思う」の%。
 注2) 配偶者がいる母親のみ回答。
 注3) 1歳後半児は、1歳6か月～1歳11か月の幼児。
 注4) () 内はサンプル数。